

令和3年度第2回青梅市移住・定住促進プラン策定懇談会会議録（概要）

- 1 日時 令和3年10月6日（水）午後3時00分～午後5時20分
- 2 場所 青梅市役所 災害対策本部室
- 3 出席懇談会員
山本懇談会員（座長）、西浦懇談会員（副座長）、ノートン懇談会員、
奥菌懇談会員、土方懇談会員、若林懇談会員、片山懇談会員、南谷懇談会員
- 4 欠席懇談会員
なし
- 5 傍聴 3名
- 6 議事
協議事項
(1) 移住・定住促進プランの方針について
(2) コロナ禍における移住に対する意識について
(3) 移住・定住促進の取組について
(4) 移住・定住促進プランのアウトラインについて
(5) その他

（配布資料）

- 資料1 青梅市の戦略と戦術の全体像
- 資料2 内閣府調査
- 資料3 移住に対する意識
- 資料4 青梅市の強み・弱みまとめ・ターゲット設定
- 資料5 青梅市が設定するペルソナ
- 資料6 青梅市への移住の決め手
- 資料7 移住・定住促進プランのアウトライン（案）

発言者	会議のてん末・概要
事務局	<p>(開会)</p> <p>(1) 移住・定住促進プランの方針について (移住・定住促進プランの方針について、資料1を用いて説明)</p>
座長	<p>御質疑や御意見等、発言をお願いします。</p> <p>(発言なし)</p>
座長	<p>それでは、移住・定住促進プランの方針について、を終了する。</p>
事務局	<p>(2) コロナ禍における移住に対する意識について (コロナ禍における移住に対する意識について、資料2を用いて説明)</p>
座長	<p>御質疑や御意見等、発言をお願いします。</p>
懇談会員	<p>前回の懇談会で発言した、コロナ禍の状況を知りたいという希望に応じた資料を用意してもらえて、大変ありがたい。資料2の5頁を見ると、テレワーク実施率が増えている。大切なのは、アフターコロナで、私は以前の社会状況に回帰しないと予測している。また、移住に興味がある層としては、アーリーアダプターもあると思う。こういうニーズに対し先手を打つ、先駆けると目立つのではないか。</p>
懇談会員	<p>資料2の38頁だが、移住に向けた具体的な行動として、情報を調べるが多いことから、情報発信が重要だ。上手な情報発信をしている自治体に魅力を感じてしまう。また、相談窓口を利用したいという声も多い。コーディネーター等の取組が大切ではないか。</p>
懇談会員	<p>情報発信を上手に感じさせている自治体は、ニーズを的確に捉えている。青梅市の情報発信は、全体像が掴みづらい。発信する情報の絞り込みが有効ではないか。また、移住につながるような決め手の見える化も必要で、それにコーディネーターが役立ちそうだ。</p>
座長	<p>情報発信の強化と更新、コーディネーターを設けてみる、青梅市の魅力を絞り込み深堀するというような話があった。見てもらう方法論だろう。</p>

懇談会員	<p>ウィズコロナになり、テレワークが後退するのではないかと思っていたが、感染症対策以外でもテレワークは環境問題の改善に貢献することからも、国や企業は後退させないだろう。そこで、青梅市は、15～20分圏内で用事が済ませられる都市づくりを打ち出していくのが良い。具体的な姿を情報発信すべきではないか。企業に対して従業員を住まわせてみないかと誘致するのも一つの方法だろう。</p>
座長	<p>人流を元に戻さないということは、東京一極集中を緩和させるということだろうか。</p>
懇談会員	<p>そうだ。</p>
座長	<p>街の基本は小学校。小学校の学区が集まって、中学校の学区を形成するように日本の街は作られている。</p>
懇談会員	<p>オフィスに社員を戻す、戻さない問題で言えば、経営者はオフィスに戻すことを考えている。しかし、働いている人は在宅希望が多い。そういうIT技術者の呼び込みもおもしろい。</p>
懇談会員	<p>食や農業が青梅市の強みだと思う。生活圏内で農業をやっていて、食が手に入る。</p>
懇談会員	<p>人の誘致が良い、工場ではなくて人の誘致。</p>
座長	<p>自然を売り込むだけでなく、ライフスタイルを売り込む。土地に根差したものと関係が深いものを青梅の強みと結びつけると良い。</p>
懇談会員	<p>青梅市は、農業の潜在能力がある。有機農業をおこなっている農家もいて、消費地にも近い。</p>
懇談会員	<p>空き家にどう人を入れるか。空き家を探す人は来るが、提供するものがない。また、提供してもらえない。</p>
事務局	<p>(3) 移住・定住促進の取組について (移住・定住促進の取組について、資料3、4、5、6を用いて説明)</p>

座長	御質疑や御意見等、発言をお願いします。
懇談会員	単身者をターゲットにしないのはもったいないのではないかと。単身者のほうが動きやすく、友達も巻き込みやすいように思う。
懇談会員	私の娘は青梅市から出て行っている。だから若手単身者をターゲットにしない意味は分かる。ターゲット層はこのままで良いが、単身者をターゲットにしないという表現の仕方ではない表現方法が必要。
懇談会員	ペルソナの設定は具体的でおもしろい。加えて20分圏内で生活するイメージがあると良い。
懇談会員	ライフスタイルを切り口に設定するのが良いと思う。
座長	ライフスタイルが見える提案が必要。物語性を打ち出すべき。
懇談会員	資料4の単身者についての表現の仕方は見直しても良いだろうが、働き盛りの世代に注目するのは方向性として素晴らしい。ペルソナの設定は、後に続く解決策のためのもの。個人的には、通勤機会が減ったから、居住地は青梅市でも良いかなという感覚だった。多くの人は、通勤距離が延びるのに、わざわざ青梅市に住むという選択はしない。だから、子供の教育が大切だ。自然豊かな環境で育てたいが、教育もおろそかにしたくないという親が多いと思う。
座長	学校教育に関連した幅広い教育も必要だろう。
懇談会員	資料6の青梅市の3つのエリアごとにライフスタイルや物語性が違う。また、空き家の解決には地域の人々の理解が重要だ。
懇談会員	青梅市の防災面での強みや弱みは。
懇談会員	地盤は固く今後の大きな地震の震源と予測される位置からは遠いので地震には強いだろうが、山があるところは土砂災害の危険はつきものだろう。
事務局	(4) 移住・定住促進プランのアウトラインについて (移住・定住促進プランのアウトラインについて、資料7を用いて説明)

座長	御質疑や御意見等、発言をお願いします。第4章の部分で、これまでの話しを具体化していくのだろうと思っている。
懇談会員	移住を検討する方が、情報にアクセスしやすいよう第4章の区分をもっと少なく3つくらいの区分でも良いかなと思った。
座長	(5) その他 次回懇談会の日程について事務局からお願いします。
事務局	次回懇談会は、11月22日月曜日午前10時からはいかがか。
座長	皆様、御都合はいかがか。 (異議なし)
座長	それでは、次回懇談会の日程については、ご了承いただきたい。以上で、本日本日予定した案件は全て終了した。第2回青梅市移住・定住促進プラン策定懇談会を閉会する。 (閉会)